

日本発ドイツ便り～ニュルンベルクでお散歩②負の遺産

観光案内所で、「なにか面白いところ(名所)はありますか?」と聞いたら「ドイツに興味があるのなら、是非行ってらっしゃい」とお勧めされたのが、Dokumentationszentrum Reichsparteitagsgelände(ドクメンタツィオンスツェントルム・ライヒスパタイタークスゲレンデ、ドイツ語としても長いので、略して Dok-zentrum:ドクツェントルムと呼ばれます。)日本語では「帝国政党議会場記念センター」というところ。そうです。ナチスの帝国政党議会です。中央駅から Dok-zentrum 行きの路面電車に乗って約 20 分。巨大な建物が見えてきます。



ニュルンベルクは、ナチ時代の負の遺産が残る街です。この建物、以前は帝国政党議会として建設されました。なんと広さは 4 平方キロメートル以上とのこと。

戦争が終わって、約 50 年を経て、2001 年から「帝国政党議会場記念センター」として公開されています。この施設の歴史、国家社会主義者たちの犯罪的権力の行使に関する情報、そしてその中でもこの街ニュルンベルクと直接関係することを中心に展示が行われています。

中に入ると、オーディオガイドを貸してくれます。(英語もしくはドイツ語)

あとは、帝国政党会議の歴史、この施設の建設について、悪名高い 1935 年のニュルンベルク法(ドイツ人の血と名誉を保護する為の法律)について、その後の戦争、敗戦後のニュルンベルク裁判について、当時の写真、音声、映像、そしてオーディオガイドの説明を聞きながら見ることができます。

決して楽しいものではないですが、あえて「良い」「悪い」といった見方をするのではなく、淡々と起こったこと、事実を伝えている、そんな風に感じました。

途中、この敷地内の同じ場所の過去と現在の比較の映像が出てきました。

何万人もの党員でぎっしりの広場では今はスケートボードを楽しむ子供たち。ツェッペリンの発着場だった広場では、芝生の上で寝転がって本を読む人達が…。不思議な気分です。



この建物もある意味、「誇大妄想」の遺跡なのかな、と思います。

この帝国政党議会など、ナチスの重要な施設があったため、ニュルンベルクは徹底的に破壊されたのに、この建物は残ったんですね。それもまた不思議な気がします。

以前ケルンの語学学校に通っていたときにも第 2 次世界大戦でドイツが何をしかた、かなりしっかり習いました。(実際、ドイツの子供たちも同じように学校で学びます。)そのときは、言語を学ぶ=文化や歴史、現在も過去もひっくるめて、その国を知ること+体験することなんだなあ、と目から鱗だったことを思い出しました。

こうやって過去の負の遺産と負の歴史を世界に向けて公開することは、「二度と同じ過ちは繰り返さない」「過去の過ちは忘れない」という強い決意の表現なのだ、と私は受け取りました。



誇大妄想の隣にはこんな静かな湖が…。この風景をみて心が落ち着きました。

観光名所と言っていいのかわかりませんが、ニュルンベルクという街、そしてドイツという国を知る上で、行ってよかったですと思える場所でした。

今回は行きませんでした、同じ敷地内に、ニュルンベルク裁判の開かれた法廷もあります。もっとドイツを知りたい！という方は一度訪れてみてください。

きっと、ドイツがもっと好きになりますよ。